## 【執筆者プロフィール】

**野口善敬**　一九五四年、福岡県生まれ。九州大学大学院博士課程中退。福岡県長性寺住職。花園大学教授。妙心寺派教化センター教学研究委員。博士（文学・東洋大学）

**廣田宗玄**　一九六七年、兵庫県生まれ。花園大学大学院博士課程修了。兵庫県順心寺住職。花園大学非常勤講師。妙心寺派教化センター教学研究委員。博士（文学・花園大学）

**丸毛俊宏**　一九七五年、愛知県生まれ。名古屋大学大学院博士課程中退。愛知県永弘院住職。妙心寺派教化センター教学研究委員。

### 《『圜悟心要』訳注・花園大学国際禅学研究所『圜悟心要』研究会参加者》

野口善敬（九州西教区・長性寺住職）
小川太龍（兵庫教区・常楽寺副住職）
桐野祥陽（京都両丹教区・大泉寺住職）
瀧瀬尚純（京阪教区・寒山寺副住職）
廣田宗玄（兵庫教区・順心寺住職）
本多道隆（京阪教区・梅松院副住職）
丸毛俊宏（愛知西教区・永弘院住職）

### 《『楞厳経』訳注・教学研究委員会参加者》

小川太龍
野口善敬
廣田宗玄
堀　祥岳（岐阜東教区・安國寺副住職）
本多道隆
丸毛俊宏

## 【編集後記】

パソコンやインターネットの劇的な普及により、昨今の私たちの生活は一変しました。宗教や学問、そして、これらを取り巻く環境もまた例外ではありません。

『臨済宗妙心寺派教学研究紀要』は、おかげさまで、昨春に第一〇号が無事に刊行され、このたび、電子化に移行し、第一一号という新たな一歩を踏み出しました。時代の流れに安易に迎合することなく、しかしそうした流れに対応し得る布教や研究のスタイルを模索する試みです。今号では、論文一篇と訳注二篇を掲載しました。

花園大学教授で本派教学研究委員でもある野口善敬先生からは、宋代の大慧宗杲禅師と、大慧禅師の言葉として伝えられた「大悟は一十八遍、小悟は其の数を計らず（大悟一十八遍、小悟不計其数）」という句との関係、及びその歴史的な成立の由来と流行の経緯に関する論考をお寄せ頂きました。考察を通して導き出された結論は、私たちが僧侶として生きていくうえで、大切なメッセージが込められているように感じられます。

訳注二篇のうち、『圜悟心要』訳注は、野口先生を中心として花園大学国際禅学研究所で月に一回のペースで開かれている輪読会の成果です。『圜悟心要』は、大慧禅師の嗣法の師であり、『碧巌録』の著者としても有名な圜悟克勤禅師の「法語」を集めた語録ですが、今回は、その冒頭の「示華蔵明首座（華蔵の明首座に示す）」を取り上げました。

もう一篇は、宗門で読誦されている「楞厳呪」を収載した経典である『楞厳経』の訳注です。こちらは、本派教学研究委員会のメンバーによる輪読会の成果であり、禅の語録にも引用されることの多い巻六の訳注に取り組んでいます。

『圜悟心要』『楞厳経』は共に文章も内容も難解であり、そのため、訳注を発表するにあたっては誤った解釈

も少なくないかと思われますが、圜悟禅師の生の声に触れてみたい方や、禅門で重視されてきた『楞厳経』がどのようなことを説いた経典なのかを知ってみたい方にとって、一つの手がかりとなれば幸いです。また、この分野を専門にされる方々からの、忌憚なきご批正をお願いする次第です。

中国の歴史において、印刷技術の一段の発達により、前代にも増して広く情報の共有が可能となった明代末期――この時代を生きた馮夢禎居士は、普及・閲覧に便利な方冊型大蔵経（袋綴じ仕様の大蔵経）の刊刻を目指す嘉興蔵の事業メンバーに名を連ね、こう書き記しています。

〔大型で流通には適さない従来の折本仕様の大蔵経ではなく、〕もし〔流通に適した〕方冊〔仕様の大蔵経〕が実現されたならば、山間部や津々浦々、辺鄙な田舎や辺境の町も、蔵経経典を所有できない心配がなくなるし、〔閲覧機会の少ない〕僧侶も世俗の人々も、〔そして〕聡明な知識人たちも、蔵経経典を閲覧できる機会に恵まれない心配がなくなる。（若方冊既行、山陬・海隅、窮鄉・下邑、不患不能有蔵経、若緇若素、聡明暁文之子、不患不得見蔵経。）（『刻蔵縁起』所収「刻大蔵縁起」）

このたびの電子化をきっかけとして、『教学研究紀要』に寄せられる研究成果が、これまで以上に、より広く、より簡便なかたちで、多くの方々の目に触れることを切に願ってやみません。また引き続き、宗門内外の皆様からの力作をお待ち申し上げております。

末筆ながら、長興寺住職で元教学研究委員の松下宗柏師、国際禅学研究所のトーマス・カーシュナー師からは英文タイトルに関するご教示を賜り、教化センターの中山宗祐師には事務全般の労を煩わせました。ここに深く感謝申し上げます。

（本多道隆　記）

## 【電子版『臨済宗妙心寺派教学研究紀要』執筆要項】

教化センターでは、下記の要領で、「論文」「訳注」「研究ノート」「資料紹介」「書評」などを募集しております。ふるってご投稿ください。

*

《テーマ》　臨済宗を中心とした禅宗に関するもの。ただし、仏教全般にわたる内容で、宗学に資すると考えられるものについては、これを認める。

《枚　数》　四〇〇字詰原稿用紙 五〇枚以内を目安とする。ただし、論証の過程で紙幅を更に要する論文や訳注原稿などについては、超過を認める場合もある。

《体　裁》

- 本文は日本語とする。
- 縦書きを原則とする。ただし、サンスクリットなどの資料を中心とする場合については、横書きを認める。
- ワープロソフト（一太郎もしくはＷｏｒｄ）で執筆された原稿のみを対象とする。
- 資料を口語訳した場合には、原文を必ず本文中または注に付すこと。
- 正漢字体と常用漢字体のいずれの使用も可とするが、全体もしくは本文や注単位で必ず統一性を持たせること。
- 資料として書き下し文を用いる場合、仮名遣いは新旧任意とする。
- 「今昔文字鏡」などの特殊なソフトウェアを使用した場合は、提出時にその旨を明記すること。

《提出方法》

・テキストファイルのデータとＰＤＦ、打ち出し原稿、英文タイトルを提出すること。

・テキストファイルのデータとＰＤＦ、及び英文タイトルについては、メールでの送付も可能。※詳細については、教化センターにお問い合わせください。

《提出先》

〒六一六―八〇三五　京都市右京区花園妙心寺町六四

妙心寺派宗務本所 教化センター　TEL〇七五―四六三―三一二一㈹

※封筒の表に「紀要原稿在中」と明記すること。

《締　切》

毎年十二月末日（厳守）

《公　開》

翌年四月（予定）。妙心寺公式サイト（http://www.myoshinji.or.jp/）のみでの公開とし、紙媒体での刊行は行わない。

《その他》

抜刷の提供は行わない。抜刷を希望する場合は、実費及び送料を執筆者負担とする。

※詳細については、教化センターにお問い合わせください。

臨済宗妙心寺派
教学研究紀要　第十一号
平成二十五年　五月十五日　発行
発行人　松井宗益
編集　妙心寺派宗務本所教化センター
制作　株式会社石田大成社
発行所　妙心寺派宗務本所教化センター
〒六一六－八〇三五
京都市右京区花園妙心寺町六十四
電話（〇七五）四六三－三一二一㈹
ISSN 2187-1515